

いのちの大切さを考える

町内の各小中学校では、2月の第3週を「命の週間」と位置付け、命の大切さについて学習しました。

学びの森小では2月8日、穂積地区の木村美智さんを招き3・4年生のいのちの授業が行われ、満州から海を渡った開拓団が体験したつらい戦争や、木村さんが小学生だった頃の暮らしの話をお聞かせいただきました。

生徒たちは真剣に木村さんの話に耳を傾け、いのちの大切さと当時の生活の大変さを考えていました。



親子で伝え合う立志の日

2月7日、那須中学校で2年生とその保護者が参加し立志式が行われました。生徒を代表して3組の安藤忠親さんが「立志という節目を迎え、社会の一員としての自覚を持ち、自分の行動がどんな未来につながるかを常に考え、行動します」と誓いの言葉を述べました。

親子学習プログラムでは、グループワークで「中学生は、今の自分をどう思っているのか」「親は、中学生の時の思いはどうだったのか」をそれぞれ話し合いました。保護者からは、「中学生の気持ちを考えさせられた」「子どもの言葉に耳を傾ける必要性を感じた」など多くの感想が聞かれました。

家族への感謝の気持ちや子どもへの愛情を書いたカード交換の時には、会場は温かい雰囲気になりました。



四季折々の素晴らしさ

第14回四季の那須フォトコンテストの入選作品35点が町役場市民ホールに展示されています。

3月15日まで展示予定ですので、来庁の際はぜひ、那須の魅力あふれる作品をお楽しみください。



150年以上の伝統ある神楽舞。御神楽に頭を嚙んでもらい回払い。集落内21軒を歩いて門付けを行いました。(2/24 時庭の神楽 時庭地区内)

鬼はそと!福はうち!

2月3日黒田原第1保育園で、豆まきが行われました。前日に届いた予告状とおり3人の鬼が現れると、園児たちは大泣き。泣きながら勇気を出して、自分たちで作った豆入れから、豆を鬼にまきました。

鬼が去った後はみんな笑顔で記念撮影。おやつの中には、煎った豆をみんなでおいしくいただきました。

